

飛鳥

咲き誇れ
美しき笑顔、
舞いあがれ
小城市の
こころ

薫 風 新 都



— みんなでつくる・笑顔あふれる小城市 —

美しい桜や梅の花、果実の香りに包まれた小京都、小城市。
市制10周年の新たな息吹は、このまちの美しい自然と文化、
美しいところを乗せて、さらに大きく舞い上がる…。

CONTENTS

プロローグ『海外飛香』…01

一章「飛」…02

笑顔サク。お花見ワークシヨップ

小城の桜の木の下で…04

小城市の歩んだ10年を辿る

市制10周年の飛躍…10

小城市10年目の大プロジェクト始動

新時代の和の都市創造…12

二の章「香」…14

天山から有明海への風

薫風紀行…16

暮らしに生きる小城の和(ごころ)

「するうに生きる」…20

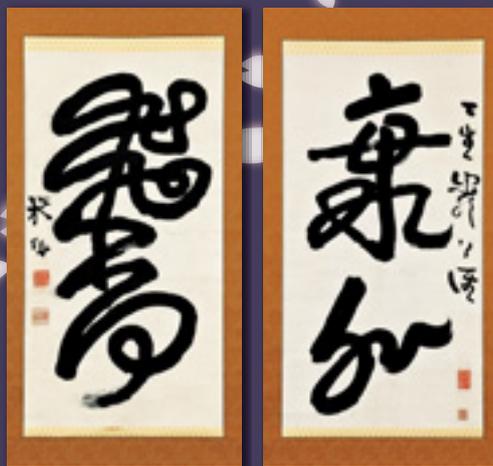
「やさしいが新しい」…21

「まごころの品々」…22

「ありがとうの関係」…23

薫風新都 ～みんなでつくる笑顔あふれる小城市～…24

エピローグ 美しい小城市の未来(市長あいさつ)…32



『小城の桜の壮さは、海を越えて京都でも香ってきそうなほどだ』—そんな意味を持つ「海外飛香」。和歌集の題を書いたこの書画は、小城市出身で、近代日本書家の一人であり、書聖と謳われた中林梧竹の代表作である。

17世紀半ば、小城の二代藩主鍋島直能なおよしが現在の小城公園である藩庭などに多数の桜を植樹した。その美しさを聞いた後西天皇と侍従から称賛の和歌が送られ、直能公は自作の歌を加えたものを「八重一重」、別名「海外飛香」と題して藩代々の宝として保管した。梧竹は藩庭跡地に現在の小城公園が完成した記念に、御製歌碑等を3基建立した。

梧竹は文政10年(1827年)に小城で生まれ、幼い頃からその才能を発揮した。江戸で書を学んだ後、中国に渡り六朝書体や墨絵の技法を身につけ、独自の書風を築き上げた。梧竹は地位や名誉に執着せず、無欲で童心のような性格であったという。その人柄から、地元では今でも「梧竹さん」と呼ばれ、親しまれており、2013年に没後100年を迎えている。



NAKABAYASHI GOCHIKU



▲富士山頂記念写真

平成25年6月に世界文化遺産に登録された日本のシンボル「富士山」で、梧竹の銅碑を見ることができるところをご存知だろうか。「鎮國之山」と刻まれた銅碑は、明治31年(1898年)、梧竹が72歳のときに仲間と共に運び建立したもので、国の平安への思いが込められている。銅碑は現在、9合目の浅間大社奥宮に安置されている。



世界遺産となった「富士山」ゆかりの書家中林梧竹





飛一の章

小城市の新たな躍動が、10年目の飛躍へと導く

木 桜 小
の の 城
下 の
で



笑顔サク
お花見
ワークショップ

小城公園は「日本さくら名所百選」に数えられ、小京都小城を代表する名所であり、桜の季節には県内外から多くの花見客でにぎわう名庭園。



桜の下で語る新たな小城の魅力

【轟木】グループ「三日月」21は夏祭り「ムーンファンタジアin三日月」に力を入れています。皆さんが楽しんでいて、まさに根付いているとい

くつていきたいと思っています。【轟木】グループ「三日月」21は夏祭り「ムーンファンタジアin三日月」に力を入れています。皆さんが楽しんでいて、まさに根付いているとい

【江里口】今日は、このように小城公園の桜の下で皆さんとお話できて嬉しく思います。サクラ会が始まって今年で11年。市の「花」は「さくら」、市の「木」も「桜」です。小城公園は、県内で唯一「日本さくら名所百選」にも入っています。「市内を市花の桜でいっぱいしよう」と毎年100本の植樹を目指して、これまで1,200本植樹してきました。今も植樹の候補地を探し、新たに植樹していこうと活動しています。手前から桜が覆いかぶさるような桜のトンネルを通して、京都の「哲学の道」のような桜並木を小城市にもつくつていきたいと思っています。

咲き誇る桜の下で
小城の元気発信!!



文化財の深川家をNPOが補助金もなしに大家さんに家賃を支払って、光熱費も支払いながら運営している団体は全国にないそう
で、文化庁からは、「目指しているのは、こういう自立したNPOです」と言われ自信ができました。私たちでもできる持続可能なビジネスプランを完成させ、皆さんに広めていきたいと思っています。

【古川】深川家は観光ガイドの方たちとコンシェルジュ(おもてなし)ということで、2016年の祇園祭りの700年祭に向けて、ガイドツアー、小城公園周辺のパワースポットツアーをつくりました。お祇園さん、須賀神社周辺のツアーも企画中です。やっぱり拠点と拠点で文化財を繋ぐのは人ですから。そして単にイベントだけに来るのでなく、昼からぐるっと回って夜ご飯まで食べべという流れを深川家でできないかなって考えています。

う実感があります。お化け屋敷は子どもたちを巻き込んで一緒にいるのが励みになっています。また図書館と合同で、人形劇、マジックショーなど、低年齢の子どもたちが喜んでくれるような事業を行っています。

お花見メンバー 02

お花見メンバー 01

グループ 「三日月」21

轟木和美さん

「自ら取り組み、楽しいまちになる」をモットーに心豊かなまちづくりに参画することを目的としています。市のクリスマス会は共催事業、夏祭り「ムーンファンタジアin三日月」は実行委員として活動しています。



天山サクラ会

事務局長
江里口義章さん

市内を市花の桜でいっぱいしよう、旧小城町内の造園業者らを中心に発足。市内の公園や観光地にこれまで千本以上を植樹してきました。今後は市街地にも植樹するなど、目標に向けて活動しています。





江戸時代中期からの歴史を誇る国登録有形文化財「深川家住宅」(写真右)や玉屋デパートの前身である田中丸呉服店の倉庫として明治時代の中期～後期に建てられた「牛津赤れんが館」(写真左)では、情緒あふれる建物を活用し、現代の新しい感覚を取り込んだ様々な催しを展開。大きな注目を集めている。



【中島】れんがのように二人一人が縦と横にがちり繋がついていけるような組織作りができないかなという思いで「つなぎレンガ座」という会の名前にしました。これからリーダーを発掘し、育てていくことが一番目の仕事だと思っています。二番目は赤れんが館を利用しています。深川家さんのような、牛津に來たら回れるコースプランを作りたいと思っています。小城市の中でも牛津や芦刈で、散策コースプランの成功事例があるとのことなので、参考にし今後のネットワーク作りをしていきます。

また、赤れんが館は国の文化財なので、いつ行っても、すべて見学できるのが本来の姿。赤れんが館でも芦刈の紹介、三日月の紹介、小城の紹介もできる案内人を確

立させるといのが今後の会としての目標です。

【大野】小城市内のすべての公衆トイレを掃除することを目標に2年で100回掃除しました。小城市の方に「Facebook」などで一緒にやろうと告知をしていますが、なかなかいません。掃除をしてまわると、ま

ちの良さが良く見えるものです。そういう小城市の良いところを発信していこうとフェイスブック交流会としても活動を行っています。

仏教的に僧侶の立場から言うと、最近では元からあるお祭りが衰退していると感じます。神仏を祀るから祭りなので、今まであるものをもっと盛り上げたいと思います。そういうイベントが増えれば小城市内ももっと輝くのではないのでしょうか？

お花見メンバー 04

NPO法人
つなぎレンガ座

理事長
中島正人さん

平成25年7月に発足。素晴らしい癒しの空間をもつ伝統ある歴史的な文化財「牛津赤れんが館」を拠点に、現代の文化芸術発信を通して、人と人、地域、モノ、心をつなぐまちづくりをめざしています。



お花見メンバー 03

深川家「揚羽蝶」

NPO法人
佐賀県CSO推進機構
ソーシャルビジネスコーディネーター
古川久美子さん

旧造り酒屋の雰囲気を残す国登録有形文化財「深川家住宅」。同法人が地域の人々が繋がるコミュニティの場を目指し、2012年10月にカフェやギャラリーをオープンしました。



毎年5月に開催される天山アートフェスタでは、様々なアーティスト作品を展示。国の登録有形文化財・22世紀に残す佐賀県遺産に登録されている「小柳酒造酒蔵」と芸術が共鳴したにぎわい創出拠点として高い集客率を誇っている。



いきいきと活躍する市民団体が小城市のチカラ

【八谷】これまで12回開催している「天山アートフェスタ」は、当塾のメイン事業です。いろんなアート、芸術文化を通して皆さんに何かを感じていただけたら嬉しいです。これからは、子どもたちと関わりを持ったフェスタにできないかなと思っております。ほかには「蔵の市」を登録文化財である小柳酒造の酒蔵で開催して、いろんな手作り品を販売しています。また、昨年は「小城うまかもん市」を開催し、B級グルメを楽しんでいただったり、東京混声合唱団のコンサートなどを行いました。これからは、後継者を育てることが課題であり、活動を楽しみながら社会貢献ができ、自分の成長になるような会にするために新しいメンバーに入ってもらいたいですね。

【石橋】全国では珍しい先進的な学童保育支援センターが小城にあります。小城に拠点を置いている理由は「人」。いろいろな出会いのなかで小城に拠点を移してきました。学童保育は長い時間、子どもたちが生活をするので、そこで豊かな文化や人との出会いがあればと思い、小城を中心に活動しています。子どもたちが小城で育つ中で、地域の人の出合いを通して豊かな体験を積み、進学・就職などでここから離れたとしても、いずれは戻って暮らしたいと思える土壌をつくっていきたいと考えています。

【古賀】「ムツゴロウ王国夏祭り」、「夜なべ談義」、「あしぼるふれあい祭り」などのイベントを中心に企画運営しています。夏祭りは花火大会も一緒にするので、300年も続いている「沖の島まいり」の日に合わせて開催しています。他県からも多くの人が訪れ、7,000人近く集まることもあります。小学生、幼稚園生が祭りの後に私の顔を見て「祭りのおじちゃん」って声を掛けて近寄ってきてくれると、よかつたなあと思います。今の実行委員は顔ぶれが変わらないが今後新しい人がでてくるかも。それまでは頑張っていかなければと思います。「夜なべ談義」（カモ鍋を囲みながら、まちづくりについて語り合う場）は知っている方もいると思いますが、職業も年齢も関係なく和気あいあい続いています。「あしぼるふれあい祭り」は、物産販売、カラオケのど自慢、フラダンスなどにぎわっています。現在、市の助成金を利用してありますが、将来的には市の助成金も市民からの補助金ももらわないやり方を考え目指しています。

様々な視点でまちづくりを考えている方々が連携して、小城市のために元気に活動しています。これからは次世代を担うリーダーと若い力の協力をどの団体も期待しているようです。

お花見メンバー 06

NPO法人 天山ものづくり塾

理事長 八谷寛さん
小城市を何とか盛り上げたいと、2年前に理事長を引き受けた八谷さん。ものづくりの精神を大切に、文化・芸術に係わる多彩な事業を小柳酒造の酒蔵を拠点に行い、地域文化の創造と街の「にぎわいづくり」に役立つために活動しています。



お花見メンバー 05

小城フェイスブック 交流会

日蓮宗仙道山勝厳寺
僧侶 大野真如さん
Facebookユーザーで小城を愛する方々が集まり、小城市の発展について意見を交わしています。大野さんは「公衆便所掃除の会」でも、週1回早朝より公園や観光地で掃除をされ、精力的に活動しています。



1,000発の花火が有明海の夜空を彩る「芦刈夏祭り」。当日は、伝統の「沖の島まいり」が同時開催され、夜を通じてにぎわいが続く。



更なる横のつながりが小城市の未来を創る



小城市はこの10年間で
どう変わった？
これから私たちに
できることは？

【轟木】町単位の時は交流もなく自分たちのグループだけでしたが、小城市になってから各種団体の方たちと交流ができ、話を聞く機会が増えました。みんなが小城市をよくしている話や、それぞれが思っている話を聞く

こと、活動の様子を知ることができたことがよかったです。

【古川】深川家にかかわるようになって1年半。天山酒造、村岡総本舗、深川家、小柳酒造と一直線に並んでいるので、連携がとれるようになりました。またシャトルバスのおかげでお客様が回遊してくださるようになって、人の流れや、歩いている姿がいい形になってきていると思います。

【中島】私は牛津町に住んで50年になりますが、修復が必要な文化財や古い建物があり、人が来なくなった場所も増えました。小城市になって、いろんな団体からアドバースが聞けるようになったことは、市の文化のつくり方の足掛かりになるのではと考えます。

【八谷】10年間で変わったことは、旧町意識が薄れてきて小城市という一つのまとまりが少しずつ強まってきたと感じます。また、小城公園、清水の

お花見メンバー 08

ムツゴロウ王国 芦刈まちづくり フォーラム

実行委員長 古賀稔浩さん
地域を元気にしようと様々なイベントを企画しています。そのひとつが地域で作り上げる「ムツゴロウ王国芦刈夏祭り」。地元だけでなく市内のほかのまちとも連携したまちづくりを目指しています。



お花見メンバー 07

NPO法人 佐賀県放課後 児童クラブ連絡会

理事長 石橋裕子さん
県や市町の委託などを受けながら、児童クラブの充実と発展のために活動中。子育て支援を通してまちづくりに参画し、今後も子育てを支えるだけでなく、幸せな暮らしをつくる地域の仕組みを作っていきたいと考えています。



小城市の主な出来事

平成17(2005)年

【3月】小城市誕生

小城市議会が在任特例により議員定数60人でスタート

【11月】村岡総本舗小城本店・村岡総本舗羊羹資料館、日本福

音ルーテル小城教会、深川家住宅、小柳酒造、天山酒

造、牛津赤れんが館、牛津会館が「22世紀に残す佐賀県

遺産」に認定

【12月】佐賀大学と相互協力協定締結

平成18(2006)年

【2月】小城市行政改革大綱を策定

【3月】小城市議会が在任特例を廃止し議員定数26人体制に

移行

【11月】清水の滝のライトアップを開始

(現在「清水竹灯り」として開催)

平成19(2007)年

【3月】「小城どこ」でんミュージアム「屋根のない博物館構想」

を策定

【3月】星厳寺御霊屋が「佐賀県重要文化財(建造物)」に指定

【4月】教育相談の拠点となる「子ども支援センター」を開設

【4月】小城市総合計画を策定

平成20(2008)年

【1月】学校給食で地元食材をベースとした統一献立「小城市ふ

るさと食の日」を実施

【2月】「肥前小城市藩主鍋島家墓所(玉毫寺)」を小城市史跡

に指定

【7月】小城市・サガン鳥栖交流宣言

【8月】小城市都市計画マスタープランを策定

【11月】鹿児島県南九州市と「友好姉妹都市提携協定書」を締結

市制10周年の 飛躍 ~ひやく~



市民の夢と希望の実現のために突き進んだ10年。
さらなるステージへの序章。



平成21(2009)年

【2月】江里山の棚田が「22世紀に残す佐賀県遺産」に認定

平成22(2010)年

【3月】市議会議員定数を26人から22人とする

【4月】小城市キャラクター「ようかん右衛門」と「こい姫」活動開始

【6月】全国水環境保全市町村連絡協議会全国大会「名水サ
ミットinおぎ」を開催

平成23(2011)年

【2月】第51回郡市対抗県内一周駅伝大会で小城市初優勝

【4月】市立牛津保育園を認定こども園「こもの森」に移管

【6月】工業団地「小城蛭の郷ファクトリーパーク」完成

【7月】天山区共同塵芥処理場組合解散

平成24(2012)年

【4月】工場団地に進出第1号の(株)友桝飲料が操業開始

【9月】議会基本条例を制定

【10月】友好姉妹都市鹿児島県南九州市と災害時応援協定を締結

【12月】中林梧竹没後100年記念事業特別展開催

平成25(2013)年

【1月】新庁舎完成

【3月】有明海沿岸道路久保田IC～芦刈IC間開通
県道江北芦刈線バイパス開通

【5月】小城市都市計画マスタープランを補完するものとして、
小城市土地利用方針を定める

【5月】西九州大学と地域連携・協力に関する協定締結
【9月】議会中継開始

平成26(2014)年

【2月】(株)友桝飲料が事業拡大に伴い、工場団地内に第2の工場
を増設。操業は27年当初の予定

【4月】小城市立小中一貫校「芦刈観瀾校」開校

市制10周年の飛躍

小城市は、平成17年3月に旧小城市、三日月町、牛津町、芦刈町の小城郡4町が合併し誕生しました。

平成25年1月に分庁方式だった庁舎を本庁方式に移行し、より一層の体制強化が図られました。同年5月には有明海沿岸道路の久保田IC～芦刈IC及び県道

江北芦刈線バイパスが開通し、安全で快適な交通環境がさらに向上しました。

そのほか、小城町岩蔵地区に工業団地「小城蛭の郷ファクトリーパーク」の造成を行うなど、さまざまな基盤整備を進めることで、市民が誇れる「ふるさと小城市」の創造に力を入れています。



▲新庁舎



▲芦刈小中一貫校



▲(株)友桝飲料と進出協定を締結



▲ようかん右衛門とこい姫

● 小城城下町、羊羹のまちの駅 ネットワーク事業



まちの駅ネットワーク

小城市では、20の商店や酒造などが「まちの駅」に登録されており、小城の魅力やこだわり、観光情報などを提供しています。来訪者が気楽に立ち寄って休憩したり、交流できる場として、人と人の絆を育み、まちの活性化に繋げることを目的としています。

● 中心市街地 景観整備事業

市内の景観は、市街地をはじめ、河川や有明海沿岸、田園集落などの組み合わせにより成り立っています。これらの資源を活かしながら、ユニバーサルデザインの道路や建造物を整備することで、快適な空間づくりを進めています。

中心市街地の景観形成を行うことで、市民がまちのことを考え、地域活動に参加するなど、まちづくり全体へ展開することも期待されています。

〔和のまちなみ創造〕

〔まちなか市民交流プラザ整備事業〕



生活環境の整備
市では、住みよい生活環境を整えるべく新たに市営住宅の整備を行っている。



コンパクトシティの核となる施設とし、平成26〜27年度にかけて、旧小城庁舎跡地に（仮称）まちなか市民交流プラザを整備しています。3階立ての建物の展望ロビーからは、天山が一望できるつくりとなっており、地域観光・産業の振興、地域交流がさらに活発化することを期待しています。



小城羊羹

小城市10年目の大プロジェクト始動
新時代の

歴史文化の風土を活かしながら

画期的な発展を遂げる

小城市の和の都市像をご紹介します。

和の



都市創造

〔小城駅周辺環境整備事業〕

平成25～26年度にかけて、築100年を誇るJR小城駅周辺の整備を行っています。車の出入りがスムーズにできるようにするほか、ロータリーを拡幅することで、一時駐車ができるスペースを設けます。そのほか、駐輪可能台数増設、防犯カメラの設置など、利用者の安全性や利便性の向上を図り、中心市街地の玄関口として機能することが期待されています。

〔スマートIC構想〕

長崎自動車道小城パーキングエリアに、ETC専用のスマートICを平成29年度に開設できるよう協議を進めています。スマートICの設置は県内で初めてで、1日約1,000台の利用を見込んでいます。今回の設置で企業誘致をはじめ、産業の活性化や観光振興など、まちに活気をもたらす事業として注目が集まっています。



スマートICが設置される長崎道小城PA



～小城どこでんミュージアム～
屋根のない博物館
市内全体を博物館のステージと位置付け、歴史資料館(桜城館)を拠点施設に地域や文化財の特色に応じて7つのゾーン(展示館)に分かれている。



小さなギャラリー伝吉
小城羊羹で知られる八頭司伝吉本舗の店内では、定期的に陶芸、絵画などの展示会が開催されており、小城のお宝展の会場の一つにもなっている。



小城のお宝展
町全体をミュージアムに見立て、小城町を中心に20施設で開かれている。各施設が所蔵する「お宝」を公開し、期間中スタンプラリーも実施している。

●古き良き街並みで再発見

「九州の小京都」と呼ばれる小城には、文化的資源が数多く残っています。城下町小城のシンボルである小城公園のほか、祇園川はホテルの名所となっており、その清水は羊羹や清酒づくりに活用されています。また、国登録有形文化財に深川家住宅など4つが選ばれており、各所で小城の魅力を再発見することができます。



歴史に包まれこころを育んだ小城市の『薫香』



香

二の章

ぬくもりを感じる人の香は、小城市の豊かな暮らしへといざなう

「天山から有明海への風」

薫

風

紀

行

佐賀南部に吹く冷たい北風。
これを地元では「天山おろし」と呼び、
春を運ぶ風とされています。
さあ、のどかな田園を撫で、
広大な有明海へと走り抜ける
この薫風に乗って
旅にでかけましょう。

天山

江里山の
棚田

清水の
滝

佐賀
平野

歴史的
町並み

有明海



「清水の滝」は「全国名水百選」に選定されており、西日本一の名瀑布といわれている。別名「たますだれの滝」。夏は多くの人々が避暑に訪れる。ダム湖畔のキャンプ場は、家族連れにぴったり。

**美しく力強い
雄大なる山**

市 北部に位置する天山は標高1,000メートルを超え、山頂にある広大な草原にはツゲやツツジなどが群生しているほか、さまざまな高山植物を見ることが出来ます。山頂からは美しいパノラマが広がり、南には佐賀平野、その向こうには有明海や雲仙普賢岳、北には玄海灘を望むことができます。ハイキングの名所としても知られており、春から秋にかけて多くのハイカーが足を運びます。

天山
1,046.2m

**緑を育む
豊かな地形**

天 山系南側の中腹、標高250メートルに、江里山の棚田が広がっています。「日本の棚田百選」「全国農村景観百選」に選定されており、斜面に広がる棚田の数は約600枚。例年9月下旬には、彼岸花があぜ道を真っ赤に染め上げ、独特の景観をつくりあげます。天山周辺のキャンプ場や草スキー場には、多くの観光客が訪れ、自然とのふれあいを楽しんでいます。

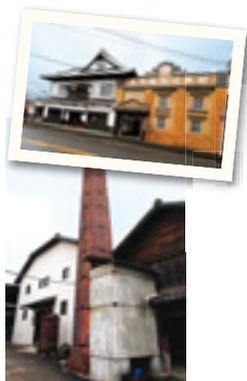


天山から江里山へ。恵みは山をつたって



◎天山

佐賀県のほぼ中央にそびえ立つ天山。8合目にある天山神社上宮の駐車場までは車の通行が可能となっており、そこから山頂までは徒歩で約30分。山頂の高原一帯は県立自然公園に指定されている。



カフェの深川家住宅「揚羽蝶」と小柳酒造は展示会やコンサートなども開催。村岡総本舗小城本店は小城羊羹の歴史を展示紹介している。

小 城の中心部を通った長崎街道は、江戸時代、京や江戸へ砂糖を運んでいた道だったことから、シユガロードと言われています。沿道は全国的にも有名な名菓が生まれ、菓子文化が築かれました。そのほか、市内には宿場町の面影があり、江戸時代に建てられた国登録有形文化財の深川家住宅や「日本さくら名所百選」に選ばれた小城公園などが残り、情緒豊かな景観をつくり出しています。

天山の麓に広がる懐かしい風景

愛宕山 396.8m

三里水田 中心市街地

天 山山系の恩恵を受けた祇園川をはじめ、3つの清流が扇状地を形成し、佐賀平野一帯をうるおしています。のどかな田園地帯となっている佐賀平野部は、全国有数の米どころとして知られています。そのほかにも、市内ではブランドいちご「さがほのか」や「天山みかん」、「牛尾の梅」などの絶品の農産物が清らかな水と肥沃な大地で育てられています。

美味が生まれる大地の理由



米どころ佐賀平野では、地域学習の一環として市内の小学生がこめ作りの体験をしている。



山を下ると情緒豊かな和文化の里



◎赤れんが

市内には、明治中期～後期に建てられた赤れんがの建物が残されており、商都牛津を象徴する歴史的な財産である。現在では情緒のある建物の雰囲気を活かし、コンサートや展示会などが行われている。





「有明海クリーンアップ作戦」は、毎年約500名の市民が参加し、市民の手で美しい景観が維持されている。

有 明海の干潟体験場は春から秋にかけて、大人も子どももどろんこになって、貴重な生物と身近にふれあえる場所となっています。天山の恵みを受ける有明海では「ムツゴロウ」をはじめとする珍しい生物が生息しています。天山から有明海までつながる美しい自然環境を守り続けるため、市をあげて清掃活動やエコ活動に取り組むなど環境保全には特に力を入れています。

運ぶ、つながる
天山のうるおい

つながる環境。天山から有明海へ



標高4m 三里水田 中心市街地

有明海

暮らしを豊かにする
有明海の恵み

市 内を流れる祇園川、晴気川、平野を経て嘉瀬川と六角川に合流し、日本一の干潟、有明海へと到達します。有明海で育まれた海苔は、質・量ともに日本一の「有明海苔」となっています。旧暦6月19日に行われる「沖の島まいり」は、約300年前から続く伝統祭りで、飾り付けをした船団が干潮時のみに現れる沖ノ島に向かい、祠に参拝して太鼓浮立を夜通し奉納します。



五穀豊稔を祈り、夕刻より飾り付けをした船団が沖ノ島に向かう。海苔養殖は、潮の干満の差を利用した支柱式栽培法で生産している。



◎有明海

4.1kmにわたって続く芦刈海岸は、乱獲や環境の変化により激減したムツゴロウを保護することを目的に、世界で唯一のムツゴロウ・シオマネキの保護区に指定されている。

暮らしに生きる
小城の和ごころ



和ごころ.01

生きる

るうに



- 1 ペアーズファームのトマト農家
- 2 緑のカーテン講習会
- 3 緑のカーテン
- 4 B級グルメ「マジェンバ」

ゆっくりが
豊かさを生む

小

城市は平成20年に「天山^{やま}から有明海^{うみ}へ 水つむぎ」をテーマに小城流スローライフプランを策定しました。市民・事業者・市が一体となってまち全体にスローライフを広め、生活の豊かさを基本とした「質の高い美しいまち」を目指しています。

天山から有明海まで繋がる豊かな環境をはじめ、受け継がれてきた歴史・文化、交流など、小城を舞台に豊かな地域資源が育まれています。近年では、豊かな食の発信や健康づくりの一環として、食育やB級グルメにも力を入れています。

pick up

食育推進

「あーも!ファミリー」



食育推進「AUMO(あーも!)計画」の食育キャラクター「あーも!ファミリー」は、イベントなどに登場し、おすすめレシピや健康づくり体操などの情報を発信している。家族みんなで一緒に食べることや、食べることの大切さを伝え、豊かな暮らしを提唱している。

誰もが過ごしやすい 空間づくり

市

内の道をユニバーサルデザインに基づいて整備することで、年齢や障がいの有無に関わらず、すべての市民が安全で快適に過ごせる空間形成に力を入れていきます。また、子育て支援施設の機能の強化をはじめ、育児サポーターの養成など、子どもだけでなく親の

サポートをみんなで行うことで、子育てしやすいまちの実現を目指しています。そして、高齢者の生きがいづくりや社会参加、就労の促進などを進めることで、自立した生活をサポートしているほか、住民目線の取り組みを進め、誰もが暮らしやすいまちを目指しています。

和
こ
ろ .02

やさしいが

新しい



- 1 2 ゆうゆうベリーズ
(絵本の読み聞かせ)
- 3 子そだてサロン
- 4 ひまわり弁当
- 5 ひまわり弁当宅配風景



pick up **新しくなった
バリアフリーの庁舎**



平成25年1月、三日月町に新庁舎が完成した。市民課や福祉課など、よく利用される窓口を1階に集中的に配置することで、利便性が向上した。また、子ども連れや車いすの方に配慮した「ローカウンター」を採用することで、市民と行政がより対面しやすい工夫をしている。



和
ごころ.03

まごころ の品々

小城生まれの 豊かな産物

天

山や有明海など、豊かな自然を有する小城で育まれた食材は、受け継がれてきた確かな技術によって、市の名物・特産品となっています。全国的に有名な「有明海苔」や「小城羊羹」をはじめ、清酒、農産物、郷土料理…職人がこだわり抜いてつくり上げ

た特産品は絶品です。

市内の直売所では、その日の朝に採れた新鮮な野菜や果物をはじめ、米や海産物まで取り揃えています。安心・安全な食材を身近な場所で手に入れられる直売所には、開店と同時に多くの人が足を運んでいます。



2



3



4



5

- 1 小城羊羹づくり
- 2 清酒
- 3 JAグリーンおぎ 良里味知「よりみち」
- 4 鯉料理
- 5 海苔



日本一の羊羹のまちと言われている小城でつくられている「小城羊羹」。市内には20軒以上の羊羹店が集中している。昔ながらの製法でつくられた羊羹は、食感が独特で人気が高い。佐賀県を代表する地域ブランド品の一つとして知られ、小城の観光や交流に活かされている。

pick up 羊羹を活かした
おもてなしのまち

手を取り合う 良い関係

小

城市では、企業と連携を図ること、観光振興や地元への愛着形成を図るとともに、地域の活性化を目指しています。

例えば、地場産品を使用した商品を生産する工場を見学する機会を設け、地元の自然や環境を知るきっかけづくりを行っています。同時に、企

業のノウハウや思いにふれる機会を設けることで、子どもたちの好奇心や向上心を高めることも期待されています。そのほかにも、身近な公園の清掃活動を行うことで環境啓発を行うなど、市と自治体、そして市民が手を取り合うことで、まち全体の元気に繋がるよう取り組んでいます。



1



2



3

- 1 清掃活動(たばこ組合)
- 2 小城市保育園の砂場を抗菌砂入りに交換(佐賀県建設業協会)
- 3 津の里子どもまつり(佐賀県建設業協会)
- 4 「こどもびいる」
- 5 工場見学(友樹飲料)

ありがとう の関係

和
じ
ろ
.04



5

4

pick UP 小城市産業展示館



牛津駅内の「津の里ふれあい館」のギャラリースペースにて、地元企業のさまざまな製品を展示・紹介している。小城市の産業に関する情報を発信することにより、地域産業の活性化や新しい産業の進出を促すことで、地域全体の経済活性化を図っている。

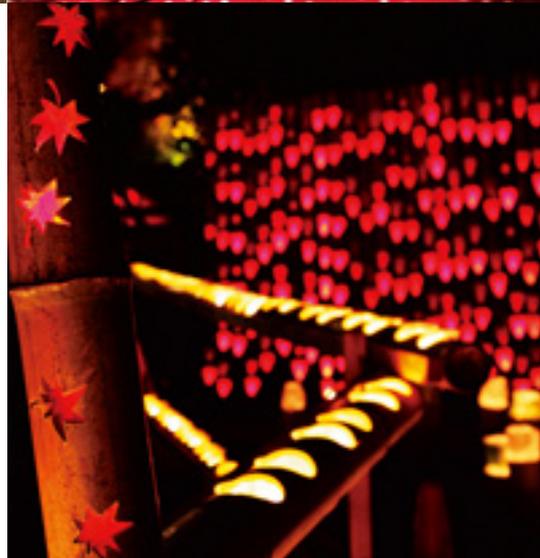


小城市総合計画

薫風新都

みんなで作る
笑顔あふれる小城市

自然、歴史、文化、人…。
古くから受け継がれてきた小城の「宝」が、
まちの輝く「未来」をつくり出す。



薫風新都とは

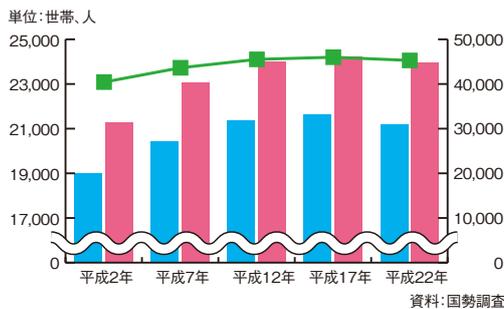
“薫風”は、初夏の涼やかな風を、“新都”は、小城市が一体となってつくる新しい都市を表す。将来像に“薫風新都”を掲げ、そこで暮らしたくなる、働きたくなる、訪れたくなるような小城独自のスタイルをつくりあげ、地域外にもそれをアピールできるようなまちを目指している。

■位置・地勢

小城市は、佐賀県のほぼ中央に位置し、北部には標高1,046mの秀峰「天山」が、南部には日本一の干潟「有明海」、中部には肥沃な大地「佐賀平野」と豊かな自然環境の中にあります。佐賀市、多久市、江北町、白石町と接しており、佐賀市の中心部までが約10km、福岡市へ約70km、長崎市へ約100kmの距離にあります。

夏は高温多湿でやや蒸し暑く、冬は乾燥した北西の季節風が強いのが特徴。総面積は95.85km²で、佐賀県20市町のうち第10位となっています。

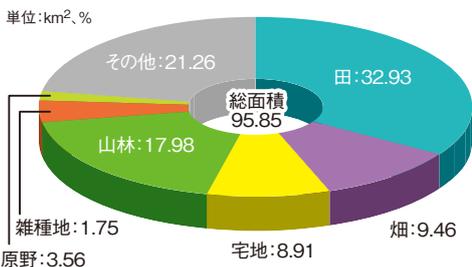
■人口・世帯数の推移



■世帯数 ■男性 ■女性

小城市は佐賀県内で人口増加率が第5位となっている。
(平成26年6月現在)資料：さが統計情報館

■地目別土地利用の構成比率



「薫風新都」をめざす 小城市の概要



小城市は佐賀県の中央に位置し、交通の便も良く、通勤通学にもとっても便利なまちですよ!

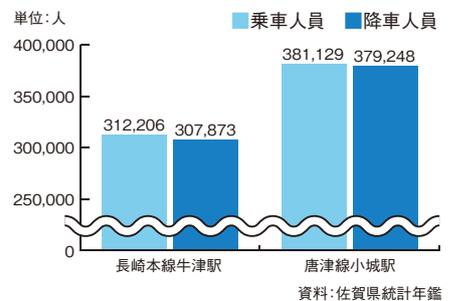
県央に光る 交流拠点の まち



国道203号

佐賀県を縦断する幹線国道203号は、唐津市から佐賀市を結び、小城市の中心を通っており、朝夕は通勤・帰宅ラッシュで多くの車が行き交う。

■鉄道乗降客数(平成23年度)



豊かな自然環境と調和した、暮らしやすい都市環境の整備を図り、小城らしい魅力ある景観を備えた秩序ある土地利用を計画的に進めています。その上で、安全・安心で快適な市街地の形成を図り、人々が集い、住みたくなるまちづくりを目指した居住環境づくりに力を入れています。

また、県央の交流拠点としての機能を強化するため、幹線道路の整備を進めるほか、安全性・利便性を考慮した道路・交通網の整備を進めています。そのほか、市民生活の質的向上と豊かな地域社会の実現に向け、通信技術を確認し一体的な情報化に力を入れています。



■芦刈インターチェンジ

県央に光る交流拠点のまち

主な事業概要



■スマートインターチェンジ

平成29年度、小城PAにETC専用のスマートICを設置することを目指している。スマートICの設置は県内で初めてで、産業や観光の振興が期待されている。



■幹線道路の整備

広域的な幹線道路を整備することで、市内外のアクセス向上を図り、人やモノの交流・連携を促進している。



■JR小城駅

風情のある駅舎を活かし、通勤・通学及び観光に訪れた人が気軽に立ち寄ることができる環境づくりを進め、おもてなしの環境をつくり出している。

地域防災訓練

小城市では自主防災組織のもと、消防団を中心に積極的な地域防災活動を行っている。特に樋口、深町地区は新興住宅地のため新住民との交流の機会としても重要な役割を果たしている。

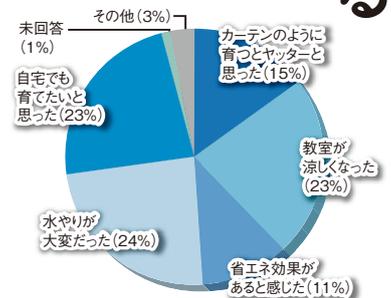


小城市民スマイルリレー
陣内 貴子さん
原田 可奈子さん **02**

小城市で温暖化防止に関わっています。小城市は自然がとても美しく環境への意識が非常に高いまちですよ!

自然と共生する 快適で安全・ 安心なまち

■みどりのカーテンを設置してみたの感想



資料:温暖化防止ネット小城市事業所活動報告

天山から有明海までの変化に富んだ地形や自然、貴重な歴史・文化を有するまちとして、環境・景観を重視した特色ある美しいまちづくりを行っています。その中で、緑と水の空間を、市民の憩いの場、交流の場、子どもの遊び場として環境づくりを進めるとともに、緑化運動を展開しています。

また、上下水道を適切に整備することで、安定供給を図るとともに、美しく快適な環境づくりと公共用水域の水質保全を目指し、循環型社会の形成に努めています。

そして、防災・防犯においては、地域が一体となって体制を強化することで、安心して生活を送ることができるよう力を入れています。



■九州でも有数のホテルの名所「祇園川」

自然と共生する快適で安全・安心なまち

主な事業概要



■おゆずり会

NPO温暖化防止ネットの協力のもと、小城市の「使わなくなった衣料品」を回収し、無料で配布する「おゆずり会」を年に1度実施。不用品としての排出を減らし、資源化率の向上へと繋げている。



■清掃活動

身近な公共空間である市内の公園や広場の清掃・美化活動を行うことで、美しい景観づくりを進めるとともに、市民参画を推進している。



■小城市水道

市民の生活に不可欠な水の安定供給のため、水源の保全・確保をはじめ、施設の老朽化への対応や節水の啓発活動を行っている。

食育まつり

試食や展示、体験コーナーなど食についてのさまざまな催しが行われる。中でも「おぎ、あーも!体操コンテスト」は健康づくりともコラボし、年々にぎわいをみせている。

第3回 小町の 食育まつり



小城市民スマイルリレー

田中秋子さん
久富敬子さん

03

小城市で「あーも体操」に関わっています。小城市は体操や食育など、健康への取り組みが活発で元気なまちですよ!

健康・福祉 日本一を 目指すまち

健康診断の実施状況(平成25年度) 単位:人

胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん
受診者数	受診者数	受診者数	受診者数
2,078	3,293	4,239	2,269
子宮頸がん	前立腺がん	特定健診	肝炎ウイルス検診
受診者数	受診者数	受診者数	受診者数
2,829	1,343	2,564	465

資料:小城市調べ

市民が健康でいきいきと暮らせるよう、人生の各期に応じた保健サービスを提供するとともに、地域医療体制の充実を進めています。また、「一人スポーツ」を目指し、親睦や交流の場としてスポーツ活動の機会を充実させています。

また、誰もが地域で支え合いながら共に生きることができるよう、市民・事業者・行政が一体となつて見守りなどの体制づくりに取り組んでいます。そして、年齢や障がいの有無に関わらず、高齢者や障がい者が地域の中で生きがいを持ち、文化的な生活を送ることができるよう、社会保障の充実に努め、介護予防を柱とした福祉や社会参加に向けた施策を推進しています。



小京都小城を歩く「ホタルの里ウォーク」

健康・福祉日本一を目指すまち

主な事業概要



小城市民病院

地域に根ざした医療を目指し、安心して受けられる確かな医療で市民の健康づくりを総合的にサポートしている。



保健福祉センター「ゆめりあ」

自分の体に合ったトレーニングを行うことができるほか、最先端のマッサージ機を揃えるなど、健康づくりの拠点としての役割を果たしている。



保健福祉センター「アイル」

天然温泉の浴室と足湯・温水プール・トレーニングルーム・休憩室などがある。「美人の湯」と呼ばれる源泉かけ流しのお湯が好評だ。

小城の児童センターを運営しています。小城の子どもたちはとても明るく元気。子育てのしやすいまちですよ！

子どもの 笑顔が輝き 歴史と文化を 誇れるまち



梧竹席書会

近代書道の祖といわれている中林梧竹を輩出した小城市では、第三の梧竹誕生を願って年に一度席書大会を開催。幼児から一般まで様々な世代の参加者が集い、思い思いの書を書き上げます。

■児童生徒数(学級数) 単位:人(学級)

小学校	桜岡小学校	406(13)
	三里小学校	53(4)
	晴田小学校	359(12)
	若松小学校	232(8)
	三日月小学校	813(24)
	牛津小学校	453(14)
中学校	砥川小学校	142(6)
	芦刈観瀨校	270(12)
	合計	2,728(93)
	小城中学校	530(15)
	三日月中学校	444(13)
牛津中学校	276(9)	
芦刈観瀨校	152(6)	
合計	1,402(43)	

※平成26年5月1日現在。
芦刈観瀨校は、平成26年4月より小中一貫校に移行。
資料:小城市調べ

子どもが健やかに生まれ育つよう、市内の関連部門・団体の連携強化を図っています。子どもたちが次代を担う人材として成長できるように、小城ならではの特色ある教育活動を推進しています。

また、市民一人一人が生涯にわたって自発的に学び続け、積極的に地域社会づくりに参画できるように、まちづくりを進めています。そして、芸術・文化活動が活発な地域性を活かし、市民活動の支援を行うとともに、貴重な文化財の保存とまちづくりへの活用を進めています。そのほか、国際化への対応や地域間交流を行うことで、市の魅力を再発見し、情報発信を行っています。



■「小城街道ひなまつり」での雛人形づくり

子どもの笑顔が輝き歴史と文化を誇れるまち

主な事業概要



■放課後児童クラブ

放課後帰宅しても家族がいない児童に対し、放課後遊びを主とした生活指導を行っている。夏休みなど長期休暇中も実施。



■ICT授業推進

パソコンやタブレットのほか、電子黒板、プロジェクターなど情報通信技術を活用することで、わかりやすい授業を推進している。



■小中一貫教育

平成26年4月より、市立芦刈小と芦刈中は市内初の小中一貫校「芦刈観瀨校」としてスタートし、義務教育9年間の学習・生活指導の円滑な連携を図っている。

「ほたるの郷」

【平成21年度豊かなむらづくり表彰で天皇杯を受賞】

農産物直売所「ほたるの郷」は、年間250種類の野菜・加工品などを販売。県内外での出張販売のほか、地元の料理店・学校・病院などにも食材を納入し、多機能型直売所として注目を集めている。



小城市民スマイルリレー

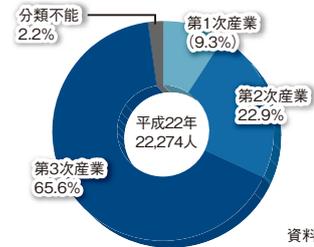
橋口 千鶴さん

05

小城市は観光資源や特産物も豊かで年間に多くの観光客が訪れるまちです。SNSなどの情報発信も活発ですよ！

交流と連携による質の高い元気産業のまち

■小城市の産業構造



資料：国勢調査

農林水産業においては、生産者と関係機関・団体が連携し、後継者不足の解消と生産性の向上を図るとともに、ブランド化を推進することで活性化を目指しています。商工業・新産業の育成においては、人々が集うにぎわいの場をつくり出すため、中心市街地の整備を進め、地域経済の活性化を図るとともに、企業誘致や経営体質の強化に力を入れています。

そして、市ならではの魅力ある地域資源を活用した観光ルートの開発をはじめ、近年の観光ニーズに対応した多面的な取り組みを積極的に推進しています。



■「ほたるの郷」内観

交流と連携による質の高い元気産業のまち

主な事業概要



■工業団地

源氏ボタルで有名な祇園川沿いの良質の水の地域に、工業団地を整備し、環境に優しい企業誘致を進めることで、市内産業の活性化を図っている。



■水産業

小城市は海苔の養殖、生産が盛んで全国有数の産地として知られている。日本一の生産量を誇る「有明海」でとれる海苔は、高級海苔として定評がある。



■農業

優良農地の確保・保全を行うとともに、生産者と消費者の交流やブランド化を進めることで、体制づくりの強化を図っている。

小城市議会

小城市議会では、市勢の発展と豊かな暮らしの実現に向けて、さまざまな活動を行っている。



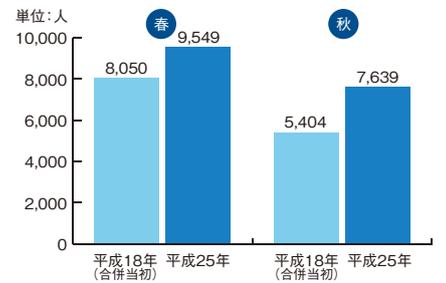
小城市民スマイルリレー
泉 万里江さん 06



小城市はまちをあげて協働に取り組む元気なまちです。市民力の高さは、小城市の大きな魅力ですよ！

ま
ち
新
し
い
共
に
つ
く
る

■清掃活動における市民参画状況の推移



資料：小城市調べ

すべての人が男女関係なくお互いの人権を尊重し共に生きる社会を築いていくため、家庭や学校、地域、職場、そして行政が一体となった人権教育・啓発活動を推進しています。

また、住民自治に基づく個性豊かな地域づくりに向け、伝統芸能伝承やコミュニティ活動を活性化させ、地域力の強化を図っています。その上で、さまざまな市民ニーズへ対応し、住みよいまちづくりを進めるため、市民協働の体制づくりに入り力を入れています。そして、持続可能な自治体経営の確立に向け、さらなる行財政改革を推進していきます。



■市役所で大活躍の「キッズコーナー」

共につくる新しいまち

主な事業概要



■津の里ミュージアム

「津の里ミュージアム」では地元の牛津高校生も主体となって子どもたちとふれあうなど、世代を問わず協働の取り組みが展開されている。



■CSOフェスティバル

市民協働のまちづくりを推進するため、市民や市内で活動する市民団体が自由に意見を出し合えるワークショップなどを開催している。



■行政窓口

市民にとって利用しやすく、親しみやすい庁舎を実現するために、案内係を設けるなど、スムーズに利用できる体制づくりを行っている。



「いごころ」

美しい 小城市の未来

小 城市は、平成17年3月に誕生したまちです。

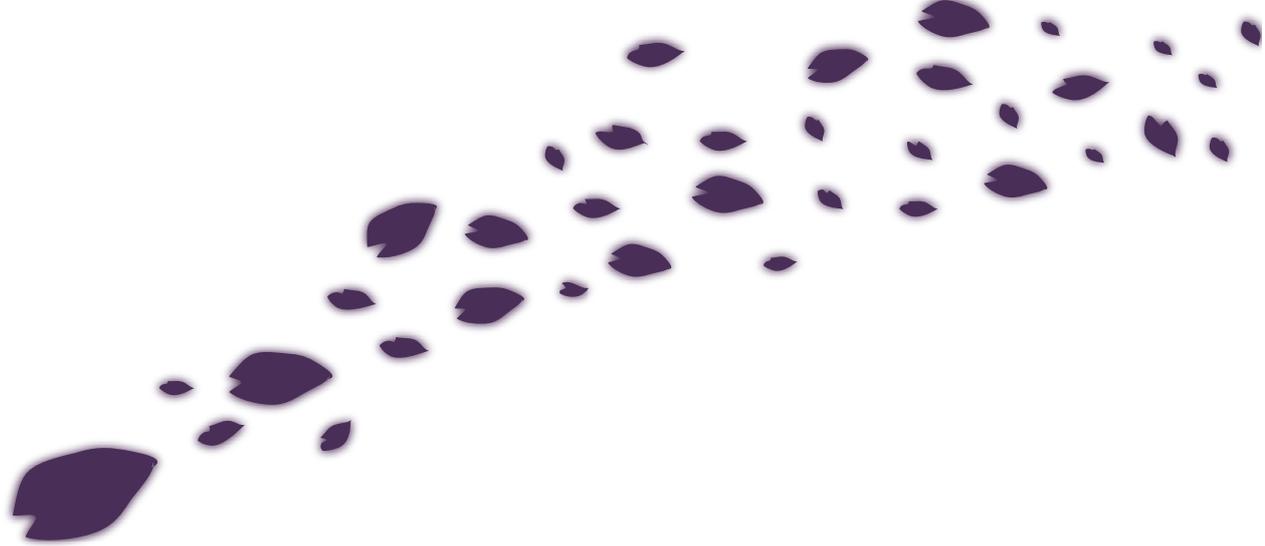
「和」で織りなす美しいまち小城市は、佐賀県のほぼ中央に位置し、北に悠々と連なる天山山系、南東は長閑(のどか)な田園風景と広大な有明海に囲まれています。

自然や歴史と文化が豊富にある小城市は、旧4町それぞれ特色があり、市民活動が活発で、まちづくりの活動や地域防災活動など様々な分野において市民みずから発動する組織が多く、「市民が生き活きと暮らせるまち」として発展してきています。小城市においても、人口減少、少子高齢化が進む中、こうした取り組み

みを積極的に後押しして、市民と行政の双方が連携することで、地域主導の政策が生まれてくるものと考えております。

市民の皆さんが安全・安心して暮らせるまちづくりのために、道路・河川などのインフラ整備に農業の六次産業化、福祉や教育さらには企業誘致や雇用対策とまだまだ課題はありますが、この小城市に住んでよかったと思っただけのように、そして、小城市の未来を担う子どもたちのためにも、くみんなでつくる・笑顔あふれる小城市くを実現するため市民の皆さんと共に歩んでまいります。

小城市長 江里秀次



新 都

薫 風 新 都



— みんなでつくる・笑顔あふれる小城市 —

編集後記

市勢要覧発行にあたり、二年かけて取材・撮影ができたことで、あらためて小城市の魅力を発信できたと思います。また、それと同時に多方面で活躍されている市民の方々とも出会うことができ、大きなパワーをいただきました。

(二の章)お花見ワークショップでは、お互い面識はあっても、まちづくりについてほかの団体と意見交換をしたことがなかったということ、この企画をしてくれてありがとう！」との言葉をいただき大変うれしく思いました。最後になりましたが、この取材にご協力いただきました皆様ありがとうございました。(小城市)

発行年月/平成26年9月

発行/佐賀県小城市

〒845-8511

佐賀県小城市三日町長神田2

312番地2

TEL:0952376111(代)

制作/(株)ジャパン総研

薫風
新都



小城公園の桜

移りゆく時の流れの中において、
凜として立ち続ける小城の桜。

その存在は、優雅さと芯の強さをあわせもつ。

悠久な自然は、これからも私たちを見守り、
まちの進むべき未来を
照らし続けてくれるだろう。

[市の花:さくら、市の木:桜]



佐賀県 小城市